

ステークホルダー・エンゲージメント

ステークホルダーとの対話

IHIグループは、企業活動を継続する上で影響の大きい、お客さま、お取引先、従業員、株主・投資家、行政、地域社会、NPO/NGOを主要なステークホルダーととらえています。そうした考えに基づいて、ステークホルダーとの対話をさまざまな方法で実施し

ています。対話のためのツールとして、「統合報告書」に加えて「Sustainability Data Book」の発行や自社ホームページにおけるESG関連サイトの充実を図り、IHIグループが考えるESG経営の詳細について発信しています。なお、重要と考えられる対話内容については経営会議や取締役会に報告し、経営戦略に反映しています。

ステークホルダーとの主な対話実績

ステークホルダー	対話の主な目的	2022年度に実施した対話の一例	頻度	SDB※掲載ページ
お客さま	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会とお客さまの課題解決への貢献 ● 製品安全 	● 日ごろの営業活動	適時	P78
		● 顧客満足度調査の実施	適時	
		● 製品安全情報の提供	随時	
お取引先	<ul style="list-style-type: none"> ● 公平・公正な取引 ● お取引先との相互繁栄 	● 「IHIグループ調達先行動指針」の周知	適時	P80
		● CSR調達モニタリング	適時	
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> ● 適時・適切な情報開示 ● 信頼関係の強化 ● 企業価値の向上 	● 株主総会の開催	年1回	https://www.ihico.jp/ir/
		● 決算説明会、テレフォン・カンファレンスの開催	年4回	
		● 個別ミーティングの実施	随時	
		● 情報提供サービス	随時	
行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 官民連携 	● 政策審議会への参加	適時	P40
		● 官民共同開発・プロジェクト参画	適時	
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会の一員であることの自覚 ● 社会課題の解決への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会向けイベントの開催 ● 出前授業の実施 	適時	P82
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ● 最も重要な経営資源である人財の育成・確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員意識調査の実施 ● コンプライアンス・ホットライン 	<ul style="list-style-type: none"> 年1回 都度 	P27, P62
NPO/NGO	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業機会につながる社会課題の深掘 	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営幹部との対話 	適時	P12

※SDB:IHI Sustainability Data Book 2023

国連機関、NPOとの対話実績(2022年度)

	国連機関(2023年2月, リモート形式)	NPO(2023年3月, リモート形式)
対話テーマ	気候変動への適応と公正な移行	鉱物サプライチェーンと公正な移行
対話の相手	国連開発計画 大司 雄介 氏	NPO法人 アジア太平洋資料センター 田中 滋 氏
IHI参加者	ESG担当役員, 社会基盤・海洋事業領域長	ESG担当役員, 調達企画本部長
概要	災害に脆弱な国や地域において事業を通じて防災・減災に貢献するには	今後需要がますます高まるニッケルの採掘現地における人権課題について

外部からの評価

IHIグループのサステナビリティへの取組みには、国内外の各種機関から評価をいただいています。

<p>S&P/JPX カーボン・ エフィシエント 指数</p>	<p>IHIグループは、「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に選定されました。この指数は、環境情報の開示状況や炭素効率性(売上高あたり炭素排出量)の水準に着目して構成銘柄のウエイトを決定するものです。</p>		<p>くるみん認定</p>	<p>IHIは、2007年、2011年、2015年、2020年に「子育てサポート企業」として厚生労働大臣から認定され、「くるみんマーク」を取得しました。「くるみん認定」とは、次世代育成支援対策推進法に基づき、行動計画を策定した企業のうち、目標を達成し、一定の要件を満たした企業を認定する制度です。</p>	
<p>FTSE Blossom Japan Sector Relative Index</p>	<p>IHIは、ESG投資のための株価指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されました。グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築された「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」は、各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスで、セクター・ニュートラルとなるよう設計されています。</p>		<p>えるぼし認定</p>	<p>IHIは、2017年に厚生労働大臣から「えるぼし(2段階目)」の認定を受けました。「えるぼし認定」とは、「女性活躍推進法」に基づき、一定基準を満たし、女性の活躍促進に関する状況などが優良な企業を認定する制度です。</p>	
<p>EcoVadis シルバメダル</p>	<p>IHIグループは、フランスのEcoVadis(エコパディス)社のサステナビリティ評価において「シルバメダル」を取得しました。EcoVadis社は、クラウドベースのプラットフォームを介して、企業のサステナビリティへの取組みに関する評価データを提供しています。サステナビリティ評価は「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4分野で包括的に行なわれます。「シルバメダル」は、評価を受けた企業のうち上位25%の中に位置することを示します。</p>		<p>健康経営 優良法人2023 (ホワイト500)</p>	<p>IHIグループ19社※は、健康経営優良法人2023(ホワイト500)の認定を受けました。「健康経営優良法人」認定制度は、経済産業省が日本健康会議と共同で開始したもので、社員の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取組みを戦略的に実践する法人を顕彰する制度です。 ※IHI, IHIエスキューブ, IHIプラント, IHI原動機, ニコ精密機器, IHIインフラシステム, IHIエアロスペース, IHIファイナンスサポート, 高嶋技研, ジャパンマリンユナイテッド, IHIキャスティングス, IHI回転機械エンジニアリング, IHI物流システム, IHIターボ, IHIインフラ建設, IHIビジネスサポート, IHIアグリテック, IHIポールワース, セントラルコンベヤー</p>	
<p>CDP気候変動</p>	<p>IHIグループは、CDPの気候変動に関する質問書に毎年回答しており、2022年度の評価はB(マネジメントレベル)でした。CDPは、世界の大手投資家が共同で設立した非営利団体で、企業や自治体などに対して質問状を送付し、回答を評価・公表することで、気候変動問題への取組みを促しています。</p>		<p>PRIDE指標 2022ゴールド賞</p>	<p>IHIは、PRIDE指標2022において、5年連続で最高位のゴールドを受賞しました。LGBTQ+に関わる人事制度や、相談窓口の設置、アライ活動の展開、理解促進教育などが評価され、ゴールドの受賞につながりました。PRIDE指標とは、work with Prideが策定した、LGBTQ+などの性的少数者の働きやすい職場づくりを目指す指標です。行動宣言、当事者コミュニティ、啓発活動、人事制度・プログラム、社会貢献・渉外活動のカテゴリーで企業の取組みを評価しています。</p>	
<p>デジタルトランス フォーメーション 銘柄2023</p>	<p>IHIは、「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)2023」に選定されました。DX銘柄とは、経済産業省が東京証券取引所と共同で、東京証券取引所に上場している企業の中から、企業価値の向上につながるDXを推進するための仕組みを社内に構築し、優れたデジタル活用の実績が現れている企業を選定するものです。</p>		<p>レジリエンス 認証</p>	<p>IHIグループは、社会インフラを支える企業としてさらなる事業継続力の向上を図るため、2016年にレジリエンス認証を取得し、これを更新しています。レジリエンス認証とは、「一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会」が、「国土強靱化貢献団体の認証に関するガイドライン」に基づき、国土強靱化の趣旨に賛同し事業継続に積極的に取り組んでいる事業者に対して「国土強靱化貢献団体認証(レジリエンス認証)」を与える制度です。</p>	